

# 平成29年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 新南小学校
校長氏名	平野 政幸
作成日	平成 30年 2月 27日

## 1 教育目標

### 豊かな心を持ち、主体的に生きる子どもを育成する

## 2 本年度の取組についての評価

	地域とともにある学校	ゆたかな心	確かな学力	体力の向上
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を積極的に発信する。</li> <li>・保護者や、地域の方に行事等への参加を呼びかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育・人権教育の充実を核にして、豊かな感受性と社会性を備えた人間の育成をめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の確実な定着をめざすとともに、授業の工夫改善と学習意欲の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に親しむ資質や能力の基礎を育て、健康の保持増進と体力向上を図る。</li> </ul>
取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校便り、HPを通して、積極的に情報を発信する。</li> <li>・子ども達が地域に出たり、地域の方が子どもの学習に関わったりする機会を設ける。</li> <li>・交流給食や感謝の集会を通して、児童の安全を見守ってくれる方々に感謝の気持ちを表す。</li> <li>・運動会、集会、人権教育講演会等、地域の方に参加を呼びかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉読書や「うちどく」の取組を通して、豊かな感性を育てていく。</li> <li>・「あいさつ」「そうじ」の徹底をめざして、強化期間や重点指導期間を設ける。</li> <li>・「心が温かくなる言葉」の学習を通して人権意識を育てる。</li> <li>・障がいをもつ児童への理解と支援のあり方について研修を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科で一人一授業を実践し、研究発表会を開催する。</li> <li>・漢字検定や計算の反復練習を取り入れ、基礎学力の定着を図る。</li> <li>・各教科で言語活動を効果的に取り入れ、コミュニケーション能力の向上を図る。</li> <li>・学習規律の向上と家庭学習の充実に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育科の単元学習を通して、授業の工夫改善を図る。</li> <li>・体育カード・上達カードを利用して学習の意欲を引き出す。</li> <li>・水泳や持久走の指導を集中的に実施し、体力の向上を図る。</li> </ul>
取組の成果と課題【G】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校便り・HP等で学校教育に関わる情報を積極的に発信することができた。</li> <li>・1、3年では、見守り隊の方々を招待して交流給食を実施し、並行して「昔の遊び」や「昔のくらし」についてお話を聞き、生活や社会科学習を深めることができた。</li> <li>・3年生が「ふれあい食事会」に招かれ、地域の高齢者との交流を深めた。</li> <li>・12月には下校見守り隊・老人会・交通指導員・婦人会の方々を招き、感謝状やプレゼントを贈呈し、歌や劇を披露した。</li> <li>・地域の方が、運動会、人権教育講演会、集会等の行事に出席してくれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「心が温かくなる言葉」の学習をはじめ、友達の「よいところ見つけ」を学級で積極的に推進し、仲間意識や人権意識の涵養につながった。</li> <li>・生活指導面の具体的な実践目標として、「あいさつ」「そうじ」に重点を置き、全職員が共通意識をもって取り組んだ。</li> <li>・「あいさつ」は、年間通じて学級単位で登校時「あいさつ運動」を実施した結果、子ども達の意識が高められたが、なお課題が残る。</li> <li>・アンケートで95.9%の児童が「学校が楽しい」と答えている。これは、子供達に安心感・充実感を感じさせる学校・学級づくりの取組の成果の表れといえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一研究授業を実践することによって、教員の授業力の向上につながることができた。</li> <li>・国語科で言語活動の充実を図ることで、他教科や実生活で役立つ言語力の育成につながることができた。</li> <li>・「ひるどく」や「読みきかせ」「うちどく」等で、児童の読書意欲の向上を図るとともに、児童が気軽に本を手にする環境を整えることができた。</li> <li>・漢字検定が定着し、子どもが意欲をもって、練習する姿勢が見られるようになった。</li> <li>・校内俳句コンクールの実施を通して、ことばを大切に作る姿勢と、短詩型での表現力を育てることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生以上を対象に、泳げない子の指導を夏休みに集中して行ったので、泳力が伸びた子が増えた。</li> <li>・「なわとびカード」が励みとなり、児童がなわとびに親しむ機運が広がり、冬場の体力向上につながった。また、より難しい技に挑戦する意欲を育てることもできた。</li> <li>・体育の授業の改善を図るために、時間割編成を工夫し、活動の場を確保し、単元学習を組みやすくなった。</li> <li>・運動会前の授業で、リレーや徒競走の練習をすることにより、児童の意識が高まり、休憩時間も自主的に練習する姿が見られた。</li> </ul>
改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との交流は今後も続けていくとともに、児童が地域へ出て行く機会も増やしたい。そのために児童の活動に関わり、応援してくれる地域の人材探しに力を入れていく。</li> <li>・学校便り・HPを通して、学校の取組を詳しく紹介できたが、さらに内容を充実させ、保護者に子供達の様子がより一層伝わるよう工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいさつのできる子」「そうじをがんばれる子」の育成をめざして、強化期間や重点指導期間を設ける。</li> <li>・道徳や人権教育の充実を図り、相手の気持ちや立場を考え、いじめを許さない心情を養うとともに、自己肯定感を育み、適切なコミュニケーションがとれる児童の育成をめざす。</li> <li>・異年齢集団の活動を通して、縦の繋がりを大切にしてい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動のさらなる充実を通して、生きてはたらく言語力の育成を図り、児童のコミュニケーション能力を高めるよう取り組む。</li> <li>・児童の読書意欲の向上に向けて「うちどく」「ひるどく」の取り組みを継続しつつ、図書室の利用率の向上や、蔵書数の増加、環境整備に努める。</li> <li>・自学ノート等を活用し、家庭学習の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間割編成を工夫して、単元学習を進めることによって、さまざまな運動にふれさせる。</li> <li>・ジョギング、なわとびをはじめ総合的な体力の向上をめざして、全校で取り組んでいく。</li> <li>・体育学習の充実を図り、児童が意欲的に運動に親しむための指導のあり方について研修を深めていく。</li> </ul>

## 3 その他の課題

